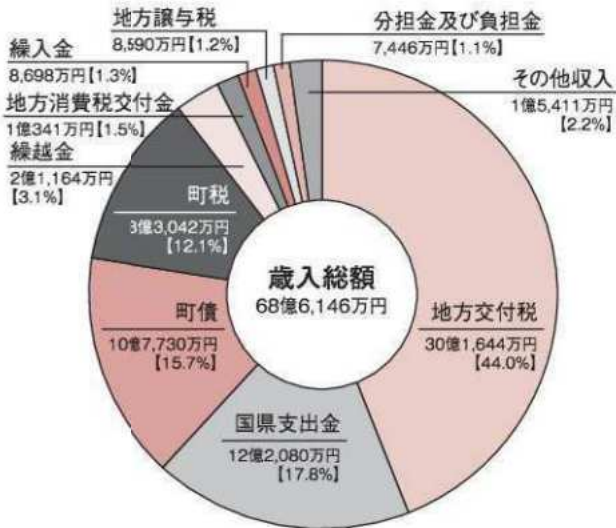


# 一般会計

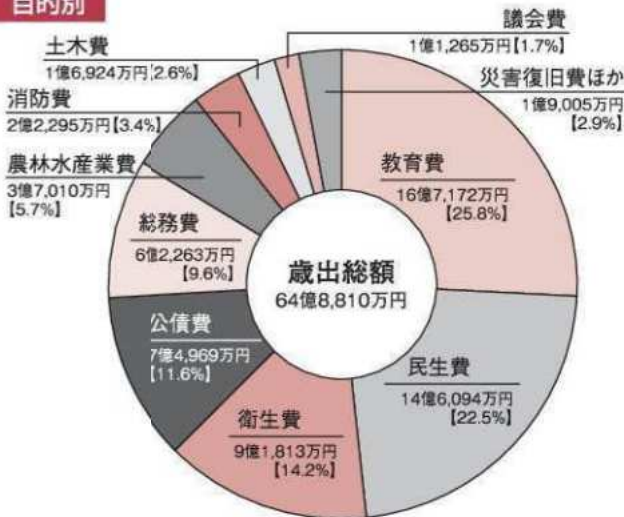
町会計の中心である一般会計は、歳入が68億6,146万円、歳出が64億8,810万円で、差引3億7,336万円の黒字決算となりました。前年度と比較すると、小中一貫校高等部校舎の建設や運動場用地の購入などにより、歳入は10億2,601万円、歳出は10億3,829万円増加しました。

## 歳入 68億6,146万円 (対前年度比17.6%増)

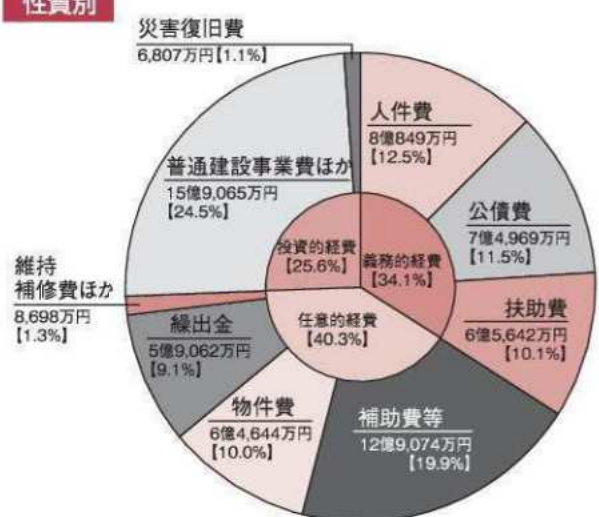


## 歳出 64億8,810万円 (対前年度比19.1%増)

### 目的別



### 性質別



# 平成23年度 決算の概要

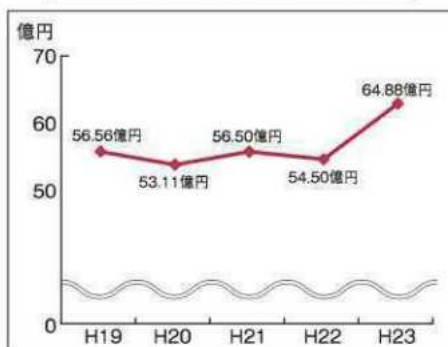
平成23年度における三戸町の一般会計と7つの特別会計の決算(平成23年4月1日から平成24年3月31日までの1年間の収入と支出の実績)が、町議会9月定例会において認定されました。これより3ページにわたって、

町民の皆さんや事業所などから納めていただいた税金や、国、県からの交付金など(歳入)が、どのように使われたのか(歳出)、その概要をお知らせします。

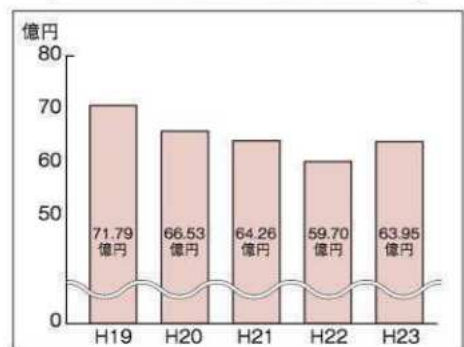
また、地方公共団体の財政の健全化に関する法律(財政健全化法)に基づき算定した、平成23年度決算に基づき健全化判断比率、資金不足比率を公表します。

小中一貫校の建設が本格的に始まったことにより、平成23年度の一般会計歳出決算額は、直近5年間で最大となりました。一般会計町債残高は平成22年度まで減少傾向にありましたが、平成23年度末残高は約4億円増の63.95億円となっています。

### 一般会計歳出決算額



### 一般会計町債残高



**小中一貫校建設事業【教育費】** 11億8,615万円

平成25年4月の開校に向け、小中一貫校高等部校舎の新設（約6億5,000万円）、運動場用地の購入と支障物件の補償（約4億5,000万円）、校舎敷地の造成工事（約5,000万円）を主に実施しました。

**台風15号災害復旧事業【災害復旧費ほか】** 6,575万円

平成23年9月21日～23日に発生した台風15号により被災した農地39ヶ所、農業用施設11ヶ所、道路19ヶ所、河川2ヶ所について、測量設計や土砂等の撤去、応急工事などを行いました。また、床上・床下浸水の被害を受けた世帯に対し、見舞金を支給しました。

**戸籍システム電算化事業【総務費】** 6,300万円

戸籍に関する事務をより効率化し、より良い住民サービスを提供するため、戸籍の電算化を行いました。事務処理や管理をコンピュータで行うことにより、証明書発行の待ち時間が短縮されました。

**緊急雇用創出事業【労働費】** 5,744万円

非正規労働者などの雇用創出のため、三戸町中心市街地活性化のための商品宅配事業、地域の歴史的資源を生かした観光振興事業、城山公園環境整備事業、三戸町「やればできる」事業拠点機能強化事業、商店街等歩道環境整備事業などを実施し、計40名を新規に雇用しました。

**図書館システム導入事業【教育費】** 2,866万円

三戸町立図書館の利用環境の向上を目的として、図書館システムを導入しました。利用者カードのバーコードを読み取ることで、図書の貸出や返却の手続きがよりスムーズになったほか、蔵書のデータベース化により、読みたい本があるかどうか検索することも可能となりました。またシステムの導入に合わせて、ソファや学習机、カーペットなど、内装についてもリニューアルしました。

**子宮頸がん等ワクチン接種助成事業【衛生費】** 1,123万円

予防接種の促進を図るため、子宮頸がん予防ワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの接種費用について公費助成を行い、延べ432人が利用しました。

**11びきのねこフェスティバル事業【商工費ほか】** 586万円

故馬場のぼる氏の没後10周年に際して、特別展を歴史民俗資料館にて開催しました。また、とらねこたいしょうの着ぐるみを購入してさまざまなイベントに登場させたり、11びきのねこを活用した町のPRとなるイベントへの助成を行ったりしました。

**八戸圏域定住自立圏形成事業【総務費】** 585万円

八戸圏域定住自立圏形成協定に基づき、八戸市立市民病院からの医師派遣事業、ドクターカー運行事業、安全・安心情報発信事業（ほっとスルメール）、外国人向け観光パンフレット作成事業などが行われました。

**魅力あふれる商店街づくり事業【商工費】** 161万円

今や町の商店街でおなじみとなった各商店をPRする店頭幕の製作や、11びきのねこのデザインと新機能を取り入れたサンカードの導入など、商店街の賑わいづくりのための取り組みに対して補助金を交付しました。

**さんのへ農業小学校事業【教育費】** 67万円

県内初の取り組みとして、27名の小学生が全19回の授業の中で、農産物の種まきから栽培、収穫、加工、販売まで、年間を通して多岐にわたる農業体験を行い、食や農業への理解を深めました。



台風15号により増水した熊原川



平成24年4月1日に  
リニューアルオープンした町立図書館



延べ3,577人の来場者で賑わった  
故馬場のぼる氏作品展



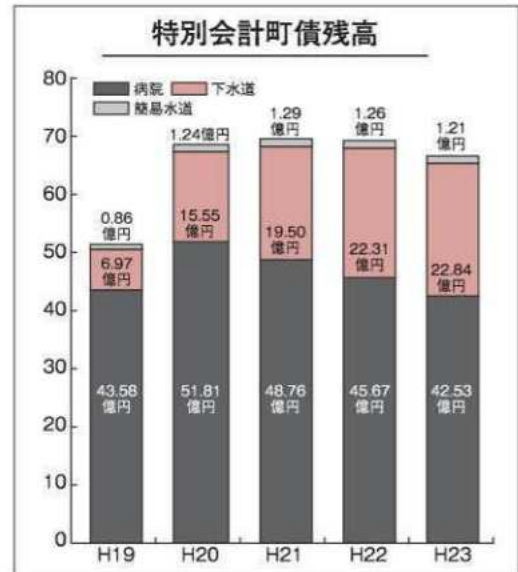
農業小学校の授業で  
種まきをする子どもたち

## 特別会計

三戸中央病院の収益的収支は、一般会計からの繰入金の増額などにより、収入が18億5,342万円、支出が17億4,409万円で、差引1億933万円の当期純利益となりました。

介護保険特別会計は、歳入が16億2,068万円（対前年度比6.9%増）、歳出が16億210万円（対前年度比7.7%増）で、前年度に比べて歳入・歳出共に約1億円の増となっています。

会計名	収入額	支出額	差引
国民健康保険直診勘定	18億5,342万円	17億4,409万円	1億933万円
三戸中央病院特別会計	1億2,621万円	3億2,966万円	△2億345万円
国民健康保険事業勘定特別会計	17億9,328万円	17億2,637万円	6,691万円
介護保険特別会計	16億2,068万円	16億210万円	1,858万円
下水道事業特別会計	2億1,474万円	2億352万円	1,122万円
後期高齢者医療特別会計	1億1,569万円	1億1,443万円	126万円
学校給食共同調理場特別会計	4,551万円	4,534万円	17万円
簡易水道事業特別会計	2,189万円	2,053万円	136万円



## 財政健全化比率

財政健全化法は、「早期健全化基準」と「財政再生基準」という2段階の判断基準を定めるとともに、公営企業については「経営健全化基準」を設け、財政状況をチェックして地方公共団体の財政破綻を未然に防ごうとするものです。

平成23年度決算に基づき健全化判断比率を算定したところ、いずれの比率についても基準を下回る結果となりました。また公営企業会計における資金不足比率についても、全会計において資金不足額はありませんでした。

### 健全化判断比率

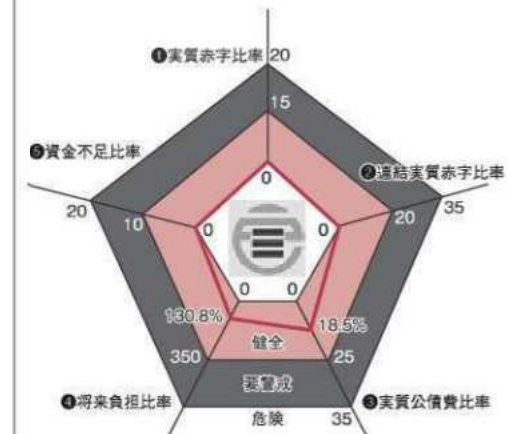
	平成23年度 決算	平成22年度 決算	平成21年度 決算	早期健全化基準 財政再生基準
実質赤字比率	-	-	-	15.00 % 20.00 %
連結実質赤字比率	-	-	-	20.00 % 40.00 %
実質公債費比率	18.5 %	19.5 %	20.3 %	25.0 % 35.0 %
将来負担比率	130.8 %	137.7 %	170.6 %	350.0 %

### 資金不足比率

	平成23年度 決算	平成22年度 決算	平成21年度 決算	経営健全化 基準
病院会計	-	-	1.8 %	20.0 %
簡易水道会計	-	-	-	
下水道会計	-	-	-	

\*「-」は、実質赤字額・資金不足額がないことを表しています。

### 財政の健全度を示す5つの指標



### 財政健全化比率について

#### 実質赤字比率

福祉、教育、町づくりなど、どの団体でも普遍的に行う事業をまとめた「一般会計」の赤字の程度を指標化して、財政運営の深刻度を示すものです。

#### 連結実質赤字比率

全ての会計の赤字や黒字を合算（連結）し、地方公共団体としての赤字の程度を指標化して、地方公共団体全体の財政運営の深刻度を示すものです。

#### 実質公債費比率

借入金の返済額及びこれに準ずる額の大きさを指標化して、資金繰りの危険度を示すものです。

#### 将来負担比率

一般会計の借入金や将来支払う可能性のある負担などの程度を指標化して、将来財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示すものです。

#### 資金不足比率

公営企業の資金不足を、事業規模である料金収入の規模と比較して指標化し、経営状況の深刻度を示すものです。